

## 農産物直売所のススメ

塩山沙弥香（兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科 共生博物部門）

### はじめに

近年、全国の農産物直売所（以下、直売所）が注目されている。直売所には以下の3つの役割があると考えられる。1つ目は、消費者に直接農産物を販売することで生産者に生きがいややりがいを与える。2つ目は、その土地で取れたものを販売することで、地産地消の拠点となる。3つ目は、近郊都市から人々が訪れることで、ゆるやかな都市農村交流の場となっている。

そこで、自然豊かな地域である兵庫県篠山市にはどのような直売所がどれだけ存在しているのかを調べた。

### 調査概要

直売所の分布実態を把握するために、2009年2月20～22日と3月6～8日に篠山市全域で調査を行った。調査の方法は篠山市の主な国道・県道などにある施設あるいは小屋を有している直売所と思われるものを有人・無人や開店の有無にかかわらず、確認の上、地図上に位置を記録した。有人で開店している直売所に関しては、開店している季節・曜日・時間および、直売所の運営主体、利益配分を聞いた。またその周辺地域にある直売所の位置についても聞いた。

### 調査の結果

調査により、篠山市内全域で51件の直売所を確認することができた。図は51件の直売所の位置をタイプ別にプロットしたものである。タイプは調査の内容により把握したデータをもとに、①無人販売所、②有人－個人運営の直売所、③有人－グループ運営の直売所、④公共施設内の直売所の4つに分けた。その結果、無人販売が14件、有人販売が37件であった。また有人販売のうち個人運営が12件、グループ運営が25件であった。

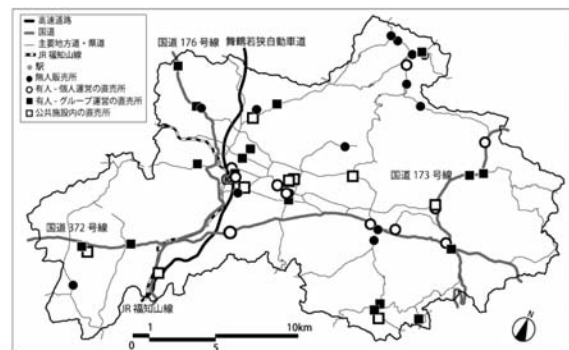


図 篠山市域の直売所分布図

調査を行ったのが冬であったため、本来営業しているが今は売るものがないので、閉店している直売所もあった。篠山市では、特産品である黒豆と山の芋の時期になると、臨時に店先や道路に簡易的な売り場を設置して直売所を行う場合もあるようだ。しかしそのような季節性が限られていて、かつ小屋等の施設を有していないものは、今回の調査には含まれていない。

### まとめ

市全域にわたって直売所がみられた。その多くは国道・主要地方道・県道沿いにある。特にIC付近や篠山城跡付近に多くみられた。また北部の草山地区には多くの無人販売所があった。

篠山では多くの直売所によって、地産地消が行われていると考えられる。また有人の直売所では近郊都市からの客とのやり取りにより、ゆるやかな都市農村交流が行われていると考えられる。

直売所の中には地域の住民グループによって運営されている直売所があった。そのような直売所は近所のおっちゃんやおばちゃんのたまり場となっており、そこで様々なコミュニケーションが行われていると考えられる。ただ単に直売所は農産物を販売するだけではなく、地域の人々が集う拠点となりうる可能性も秘めている。